

原子力安全・危機管理専門研修を開催しました

平成26年1月15日～17日の3日間、エネ研で、国内の社会人などを対象とした原子力安全・危機管理に関する研修を開催しました。

この研修は、福島第一原子力発電所の事故後、原子力安全や危機管理などについての知見を有する人材の育成がより重要になっていることを踏まえて実施するもので、昨年2月に続き2回目の実施となります。

今回は、昨年の内容から断層・耐震設計、緊急時支援ロボットなどの内容を充実するとともに、新たに参加者がグループに分かれて行うグループ討論を加えました。電力事業者などの原子力関連企業、研究機関、県内行政機関の職員および県内の大学生・院生を含む32名が参加しました。

海外から緊急時の情報伝達の専門家(国際原子力機関(IAEA)コンサルタント)を、国内の大学・研究機関から危機管理の専門家を講師として招聘し、「緊急時の情報伝達」、「原子力安全強化策」、「断層・耐震設計」、「放射線防護」などに関する講義を行いました。

グループ討論および全体討論では、「原子力災害に対する備え」や、「原子力の再稼働に向けて我々ができること」などについて、約2時間半にわたり活発な議論が行われました。参加者からは、「緊急時の情報の伝え方などについて理解が深まった。講師・テーマが充実していた。」との感想を頂きました。



「緊急時のコミュニケーション」
ジョアン・フォード氏
(IAEAコンサルタント)

支援制度の成果紹介:カシスサプリメント(小浜海産物株)

小鯛さき漬など水産加工品の製造販売などを手掛ける小浜海産物株が、エネ研の「嶺南地域新産業創出モデル事業補助金」を活用してカシスサプリメント「カシスプラス」を開発し、昨年より販売を開始しています。

開発にあたっては、カシスの果汁を絞った残渣である果皮を有効活用して、抗酸化力の高いポリフェノールの一種であるアントシアニンを含むパウダーに加工し、コラーゲンやDHA、ヒアルロン酸など他の有効成分とともにソフトカプセルに封入しました。

県内の新聞折り込みチラシによる通信販売や、オンラインショップ「丸海市場」(*)で販売中です。

なお、商品は1袋31粒入り(約1ヵ月分)で1,580円です。

(※): <https://www.wakasa-marukai.co.jp/ichiba/>

エネ研の「モデル事業補助金」は、嶺南に事業所を有する企業の皆さまに対して、新技術や新製品の開発を行うための可能性研究(基礎研究枠)や、実用化に向けた研究開発および販路開拓(実用化研究枠)の費用を補助するものです。

補助率は2/3で、補助限度額は基礎研究枠が200万円、実用化研究枠が600万円です。

ご利用については、エネ研・産業育成部(☎ 0770-24-7276)までどうぞお気軽にご相談ください。



～新年のご挨拶～

皆様には、すがすがしい新年を迎えられましたことを、お慶び申し上げます。

旧年中は、当法人の各種事業につきまして、ご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月に「公益財団法人」に移行するとともに、レーザー除染など実用化を目指した研究開発や防護服の開発などの産業支援、国の競争的資金を活用した研究の推進、国際原子力機関(IAEA)と連携したアジア諸国の技術者などを対象とした研修事業など、平成22年度から平成26年度を計画期間とする第3期中期事業計画の4年目として着実に成果を上げ、またエネ研の活動を幅広くアピールできた1年ではないかと思えます。

さて、国内の原子力発電所がすべて停止している中、エネルギー政策の指針となる「エネルギー基本計画」の改正案が昨年12月13日にまとまりましたが、この中で原子力発電は、「安全性の確保を大前提に、基盤となる重要なベース電源として引き続き活用していく」とされており、

資源の乏しい我が国においては、今後のエネルギーの多元化問題と合わせて、揺るぎないエネルギー政策を考えていかなければならないと思っています。

昨年11月19日に開催されたエネルギー研究開発拠点化推進会議では、平成24年に引き続き「充実・強化分野」として、「強固な安全対策を具体化」と「嶺南地域の産業・雇用対策を強化」が掲げられています。

研究開発においては高度レーザー技術の開発、産業育成においては嶺南企業への支援、企画支援広報においては競争的資金を活用した研究開発支援、人材育成においては国内外の原子力人材育成など、エネ研においても、これらの取組みに対して最大限の尽力ができるよう、職員が心を一つにして活動してまいります。

最後になりましたが、本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

支援制度活用セミナー開催のお知らせ

エネ研では、各種支援制度についてご説明する「支援制度活用セミナー」を開催します。

詳細につきましては、エネ研・企画支援広報部(☎ 0770-24-7273)または産業育成部(☎ 0770-24-7276)までお問い合わせください。

(日 時) 平成26年3月11日(火) 13:30～

(場 所) エネ研 第1研修室

(内 容) 各種支援制度の説明・支援制度活用企業の成果報告など

災害対応ロボット技術交流会を開催しました

平成26年1月24日と25日の両日、エネルギー研究開発拠点化計画の一環として、福井県とエネ研の主催により、災害対応ロボット技術交流会を開催しました。

会場の敦賀市の「きらめきみなと館」には、2日間で約1,000人の皆さまにお越しいただきました。

今回の交流会は、原子力発電所の緊急事態をはじめ、自然災害や火災などにも対応する「災害対応ロボット」の技術交流を通じて、国産ロボット技術の向上を図るとともに、県内企業のロボット産業への参入を促進することを目的に、初めて開催しました。

開会セレモニーでは、敦賀市の早翠幼稚園の園児35名をはじめ、多数の来場者が見守る中、杉本達治副知事、旭信昭理事長をはじめとする産学官の関係者7名がテープカットを行いました。

展示会場を見学した後、小ホールにて、杉本副知事が「この技術交流会を活用していただき、新しい企業との連携や技術の芽というものを育てていただきたい。」との開催の挨拶をされました。

この交流会では、災害対応ロボットの研究開発、製品化などに携わる全国の企業や大学、研究機関などの関係者が参加し、展示会、専門家による講演会、ロボット技術体験、災害現場を模したステージでの実演会などを実施しました。



開会式のテープカットの様子

【講演会】

小ホールで開かれた講演会では、基調講演として、経済産業省の須藤治産業機械課長(元福井県産業労働部長)が公共インフラ用ロボット、災害対応ロボットを中心にロボット開発支援策などの紹介を行いました。

パネル討論では、全国の専門家5名が「災害対応ロボットの实用化に向けて」をテーマに、災害対応ロボットの現状、課題および将来展望、福井県内の産業化の可能性について、議論しました。

満席となった会場の聴衆からは、「今後、研究開発を始める上で参考になった。」などの感想を頂きました。



開会挨拶(杉本副知事)



基調講演(須藤課長)



パネル討論の様子



閉会挨拶(旭理事長)

【展示会】

展示会場では、13企業、6団体、7大学、1高専の27団体が25ブースに分かれ、40台以上のロボットとパネルや動画映像などにより、ロボットの関連技術を紹介しました。

出展企業・団体の中には、展示しているロボットのデモンストレーションや来場者によるロボット操作体験を実施しているブースもありました。

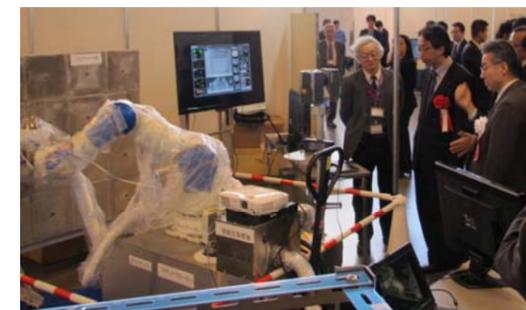
エネ研からは、開発中の「レーザー除染装置」を展示して、高い性能(除染効率が高い、除染速度が速いなど)を積極的に紹介しました。

来場した杉本副知事も、エネ研の展示ブースを視察され、実用化への期待を示されました。

(出展企業・団体)アクティブリンク、阿南電機、エネ研、金沢工業大学、関西電力、京都大学、国際レスキューシステム研究機構、消防防災ロボット技術ネットワーク、スギノマシン、東京工業大学、トピー工業、長岡技術科学大学、新潟工科大学、日本原子力研究開発機構、日本原子力発電、日立建機日本、日立GEニュークリアエナジー、福井工業高専、福井工業大学、福井大学、Brokk社(代理店:江守商事)、北陸電力、三井造船、三菱重工業、三菱電機特機システム、レスキューロボットコンテスト実行委員会、ロボカップ日本委員会(掲載は五十音順)



展示会場の様子



エネ研ブースを視察する杉本副知事

【実演会】

出展企業・団体の中で、4企業および3大学が、災害現場を模したステージ上において、ロボットの特徴や開発経緯の説明、および階段昇降や不整地走行などの作業実演をすることにより、最新の技術力を紹介する実演会を行いました。

屋外フィールドでは、Brokk社(代理店:江守商事株式会社)が、スウェーデンから来日したオペレーターによるロボットの遠隔操作を披露し、ドアの開閉、金属切断などの作業実演を行いました。

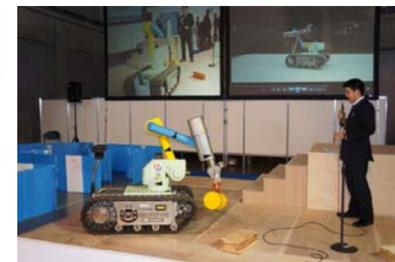
(実施企業・団体)京都大学、東京工業大学、トピー工業、長岡技術科学大学、Brokk社(代理店:江守商事)、三井造船、三菱重工業(掲載は五十音順)



階段昇降



不整地走行



重量物運搬を説明



金属切断作業(屋外)

【ロボット技術体験】

25日には体験を通して小中高生のロボット開発への興味や関心を醸成する目的で、ロボット組立体験教室とミニロボット操作体験教室を開催しました。

ロボット組立体験教室では、福井工業大学 小沢教授の指導のもと、39名の小中高生がロボットの組立、動作プログラム作成、組み立てたロボットの動作確認に、午前と午後の各2時間半にわたり取り組みました。参加者からは、「難しかったけど、おもしろかった。」との感想を頂きました。

また、ミニロボット操作体験教室では、福井大学 川谷准教授の協力により、ロボットにつけたカメラ画像を見ながら迷路を脱出する「迷路ロボット」や、がれきをミニロボットでかき分けて、化石を探し当てる「福井化石発掘物語」のコーナーで、多くの児童・生徒が操作を体験していました。



ロボット組立体験教室の様子



ミニロボット操作体験教室の様子